

業績集

(1998年1月1日～12月31日発表分)

一般教育

論文

Kawasaki N, Satonaka M, Imagawa M, Naito H, Kawasaki T: Functional characterization of the bovine conglutinin promoter: Presence of a novel element for transcriptional regulation of a C-type mammalian lectin containing a collagen-like domain. *J. Biochem*, 124(6): 1188-1197, 1998.

上村和秀, 馬永, 内藤はるな, 川崎伸子, 川崎敏祐: 先天性免疫に関与する血清マンナン結合蛋白質の構造と機能. *蛋白質核酸酵素*, 43(16): 2428-2434, 1998.

笠原勝幸: 保健体育学概論—大綱化に対応して—その1: 保健体育学総論. *健康人間学*, 10: 41-49, 1998.

笠原勝幸: 保健体育学概論—大綱化に対応して—その2: 保健体育学各論(1). *健康人間学*, 10: 50-59, 1998.

奥村仁菜, 笠原勝幸, 坪山直生, 戸口田淳也, 中村孝志, 松井真萌, 立花隆夫, 中嶋安彬: 肩関節離断術を行った Cutaneous MFH の1症例. *中部日本整災学会誌*, 41: 251, 1998.

坪山直生, 戸口田淳也, 笠原勝幸, 中村孝志: 悪性軟部腫瘍追加広範切除に至る過程の検討. *中部日本整災学会誌*, 41: 69-70, 1998.

笠原勝幸, 坪山直生, 戸口田淳也, 中村孝志, 中嶋安彬: 二次性動脈瘤様骨嚢腫に対する人工骨 AW-GC による関節温存手術. *中部日本整災学会誌*, 41: 471-472, 1998.

笠原勝幸, 坪山直生, 戸口田淳也, 中村孝志: 骨巨細胞腫に対する SA と AW-ガラスセラミックを用いた関節温存手術—従来の手術方法と比較して. *日本整形外科学会誌*, 72: S94, 1998.

松井真萌, 李相広, 金沢伸雄, 藤井秀孝, 立花隆夫, 太田敬治, 堀口裕治, 今村貞夫, 笠原勝幸: 悪性線維性組織球種の1症. *皮膚科紀要*, 93: 191-198, 1998.

笠原勝幸, 坪山直生, 戸口田淳也, 中村孝志, 中嶋安彬: 二次性動脈瘤様骨嚢腫に対する外科的治療法について. *臨床整形外科*, 33: 621-629, 1998.

笠原勝幸: 骨折と介護. 第11回健康科学公開講座テキスト: 27-29, 1998.

笠原勝幸, 坪山直生, 戸口田淳也, 中村孝志: 骨巨細胞腫に対する新しい手術方法. *中部日本整災学会誌*, 41: 929-930, 1998.

Kasahara K, Tuboyama T, Toguchida J, Nakamura T: Surgical treatment for Giant-cell tumor of bone with using AW-GC and Surgical Adjuvants. Abstracts of the 12th Congree of Western Pacific Orthopedic Association, 12: 26, 1998.

菅佐和子: 一臨床心理士(心理カウンセラー)としての願い. *健康人間学*, 10: 60-62, 1998.

菅佐和子: 病院心理臨床の経験を社会で活かすために. *季刊心理臨床*, 11(4): 241-247, 1998.

菅佐和子: スーパービジョンについて—臨床心理学の立場から—. *京都理学療法士会誌*, 27: 2-5, 1998.

大塚研一: 統計で見る健康. *健康人間学*, 10: 10-15, 1998.

著書

加茂映子(翻訳): シュヴァイツァー博士とともに. ルイーズ・ジレック=アール著, 河合文化教育研究所, 1-253, 1998.

中村定男: 物理学実験. CO-OP BOOK PRINT サービス, 1-64, 1998.

菅佐和子: 思春期神経症の心理療法. 「病院の心理療法」山中康裕, 馬場礼子編, 金子書房,

157-166, 1998.

学会発表

内藤はるな, Vladimir Dlabac, 長谷川恵司, 川寄伸子, 川寄敏祐: プタ新規血清レクチンの cDNAクローニング. 第71回日本生化学大会, 1998. 10. 14-17, 名古屋, 生化学, 70(8): 1031, 1998.

川寄伸子, 里中美都子, 山田加奈子, 今川正良, 川寄敏祐: ウシ血清コングルチニン遺伝子のプロモーター領域の解析. 日本薬学会第119年会, 1999. 3. 29-31, 徳島, 日本薬学会第119年会講演要旨集, 3: 50, 1998.

宗和隆, 坪山直生, 池田登, 仮本幹雄, 中村孝志, 戸口田淳也, 笠原勝幸, 中嶋安彬: 坐骨神経に発生し, 神経幹内に広範な浸潤をみた malignant peripheral nerve sheath tumor の1例. 第34回整形外科集談会京阪神地方会, 1998. 1. 17, 大阪.

坪山直生, 戸口田淳也, 笠原勝幸, 琴浦良彦, 平岡真寛, 高橋正治, 中村孝志: H-1型腫瘍用人工骨頭による大腿骨近位部置換術の成績. 第28回日本人工関節学会, 1998. 3. 5-6, 金沢.

笠原勝幸, 坪山直生, 戸口田淳也, 中村孝志: 骨巨細胞腫に対する SA と AW-ガラスセラミックを用いた関節温在手術—従来の手術方法と比較して—. 第71回日本整形外科学会学術集会, 1998. 4. 17-20, 徳島.

笠原勝幸, 坪山直生, 戸口田淳也, 中村孝志: 骨巨細胞腫に対する新しい手術方法—SA と AW-ガラスセラミックによる—. 第90回中部日本整災学会学術集会, 1998. 5. 21-22, 大阪.

坪山直生, 戸口田淳也, 笠原勝幸, 中嶋安彬, 中村孝志: 滑膜肉腫の治療成績—再手術を中心とした検討—. 第31回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 1998. 7. 18-19, 千葉.

笠原勝幸: 骨折と介護. 第11回健康科学公開講座, 1998. 7. 25, 京都.

Kasahara K, Tuboyama T, Toguchida J, Nakamura T: Surgical treatment for Giant-cell tumor of bone with using AW-GC and Surgical Adjuvants. The 12th Congree of Western Pacific Orthopedic Association, 1998.

11. 2-6, Fukuoka.

看護学科

1. 著書

中井義勝, 長村義之, 伊東良子, 山王なほ子, 五味田裕: 慢性喫煙とオピオイドペプチド. 平成9年度喫煙科学研究財団研究年報, p. 594-597, 1998.

土井喜宣, 松井毅, 月田早智子: ERM (ezrin/radixin/moesin) タンパク質を介したアクチンフィラメント-細胞膜相互作用と細胞内情報伝達. 実験医学, 16: 89-97, 1998.

近藤隆久, 月田早智子: 接着分子による制御. アポトーシスと疾患, 218-229, 1998.

松井毅, 月田早智子: ERM タンパク質の Rho による機能制御. アクチンフィラメント-細胞膜相互作用における役割. 細胞工学, 17: 1856-1864, 1998.

服部律子訳, ふたごの心の発達. Collier. HL 著, ふたごの心理学, 早川和生監修. ビネバル出版. 55-92, 1998.

2. 論文

G. Okano, Z. Mu, Z. Lin, Y. Sato, R. Holmes, M. Suzuki and Y. Nakai: Low prevalence of disordered eating patterns and menstrual irregularities in Chinese female athletes. Jpn J Phys Fitness Sports Med, 47(3): 1-278, 1998.

J. Fujitani, Y. Higaki, T. Kagawa, M. Sakamoto, A. Kiyonaga, M. Shindo, A. Taniguchi, Y. Nakai, K. Tokuyama and H. Tanaka: Intravenous glucose tolerance test-derived glucose effectiveness in strength-trained humans. Metabolism, 47(7): 874-877, 1998.

中井義勝: RET 多発性内分泌腺腫症 (MEN) 2型. 現代医療. 30(1): 98-101, 1998.

中井義勝, 濱垣誠司, 加藤星河, 清野裕, 高木隆郎, 栗本文彦: 摂食障害女性患者における血漿レプチン濃度. 精神医学, 40(1): 59-62, 1998.

中井義勝, ビデオ画像変形身体イメージ測定装置と Eating Disorder Inventory (EDI) で評価した摂食障害患者の身体イメージについて. 精

神医学, 40(3): 247-252, 1998.

中井義勝, 岡田純, 岡田達也, 夏井耕之, 濱垣誠司, 高木隆郎: 神経性食欲不振症の身体医学的治療について. 第23回京都医学会集録, p. 61-63, 1998

中井義勝: Image Marking Procedure と Video Distorted Technique で評価した摂食障害患者の身体イメージ. 心身医学, 38(5): 325-330, 1998.

中井義勝, 濱垣誠司, 高木隆郎: 大食症質問表 Bulimic Investigatory Test, Edinburgh (BITE) の有用性と神経性大食症の実態調査. 精神医学, 40(7): 711-716, 1998.

中井義勝: 摂食障害患者における血清脂質とアポリポタンパク. 日本栄養・食糧学会誌, 51(5): 267-272, 1998.

中井義勝, 濱垣誠司, 高木隆郎: 摂食障害患者の血清総コレステロール値. 精神医学, 40(12): 1297-1299, 1998.

Shigeru Tsuyuki, Takashi Inamoto, Yoshiaki Nakamura, Koichi Kinoshita, Takashi Gomi, Yoshiharu Shirakata, Toshiyuki Kitai, Akiyoshi Kanazawa, Akira Yamauchi, and Yoshio Yamaoka: Recombinant interleukin-2 therapy for angiosarcoma of the breast; efficacy of daily or weekly administration — A case report —. *Ann. Cancer Res. Ther.* 6(2): 94-98, 1998.

稲本俊: 乳房の視診所見—乳癌を中心に JIM, 8(3): 201, 1998.

Hironori Kato, Takashi Inamoto, Shinji Uemoto, Hitoro Egawa, Yukihiko Inomata, Koichi Tanaka, Yoshio Yamaoka, Tsutomu Yoshikawa, and Junji Yodoi: Diagnosis of Epstein-Barr virus lymphoma after liver transplantation. *Monograph Cancer Res.* 45: 149-153, 1998.

Koichi Kinoshita, Iwao Ikai, Takashi Gomi, Michiyuki Kanai, Sigeru Tsuyuki, Tetsuro Hirose, Yasuhiro Kawai, Akira Yamauchi, Takashi Inamoto, Yukihiko Inomata, Koichi Tanaka, and Yoshio Yamaoka: Exposure of

hepatic sinusoidal mononuclear cells to UW solution in situ but not ex vivo induces apoptosis. *J. Hepatol.* 29: 300-305, 1998.

Shigeru Tsuyuki, Akira Yamauchi, Hajime Nakamura, Koichi Kinoshita, Takashi Gomi, Koichi Tanaka, Takashi Inamoto, and Yoshio Yamaoka: Possible Availability of N-acetylcysteine as an Adjunct to Cytokine Therapy for Hepatocellular Carcinoma. *Clin. Immunol. Immunopathol.* 88(2): 192-198, 1998.

稲本俊: Day Surgery 一日帰り手術—日本外科宝函, 67(2): 39-40, 1998.

Shigeru Tsuyuki, Akira Yamauchi, Hajime Nakamura, Yoshiaki Nakamura, Koichi Kinoshita, Takashi Gomi, Yasuhiro Kawai, Tetsuro Hirose, Keizo Furuke, Iwao Ikai, Katsuyuki Ohmari, Takashi Inamoto, and Yoshio Yamaoka: N-acetylcysteine improves cytotoxic activity of cirrhotic rat liver-associated mononuclear cells. *Internatl. Immunol.* 10(10): 1501-1508, 1998.

Yonemura, S., Hirao, M., Doi, Y., Tsukita, Sa., and Tsukita, Sh.: Ezrin-radixin / moesin (ERM) proteins bind to a positively-charged amino acid cluster in tuxta-membrane cytoplasmic domain of CD44, CD43, and ICAM-2. *J. Cell Biol.*, 140: 885-895, 1998.

Matsui, T., Maeda, M., Yonemura, S., Amano, M., Kaibuchi, K., Tsukita, Sa., and Tsukita, Sh.: Rho-kinase phosphorylates carboxy-terminal threonines of ERM proteins and regulates their head-to-tail association. *J. Cell Biol.*, 140: 647-657, 1998.

Doi, Y., Kurita, M., Matsumoto, M., Kondo, T., Noda, T., Tsukita, Sa., Tsukita, Sh. and Seya, T.: Moesin is not a receptor for measles virus entry into mouse embryonic stem cells. *J. Virol.*, 72: 1586-1592, 1998.

Chishti, A. H., Kim, A. C., Marhatia, S. M., Lutchman, M., Hanspal, M., Jindal, H., Liu, S. C., Low, P. P., Rouleau, G. A., Mohandas, N., Chasis, J. A., Conboy, J. G., Gascard, P., Taka-

- kuwa, Y., Huang, S. C., Benz, E. J. Jr., Bretscher, A., Fehon, R. G., Gusella, J. F., Ramesh, V., Soloman, F., Marchesi, V.T., Tsukita, Sh., Tsukita, Sa., Arpin, M., Louvard, D., Tonks, N. K., Anderson, J. M., Fanning, A. S., Bryant, P. J., Woods, D. F., Hoover, K. B.: The FERM domain: a unique module involved in the linkage of cytoplasmic proteins to the membrane. *TIBS*, 23: 281-282, 1998.
- 亀山美智子: 女性画家奥原晴湖について. 京都大学医療技術短期大学部紀要, 18, 25-33, 1998.
- 高橋みや子, 佐々木明子, 山田浩子, 桂 敏樹, 星野明子, 渡部由美, 大島義彦, 鈴木育子: 山形県における訪問看護システムの構築に関する研究, 山形県高齢化社会研究所紀要, 17(2), 1-18, 1998.
- 桂 敏樹, 星野明子, 渡部由美, 安村誠司, 蘭牟田洋美, 吉田ひろみ, 鈴木育子, 後藤順子: 在宅ケアに関わる関連諸機関のネットワーク化に関する研究(1)—山形県44市町村における「高齢者サービス調整会議」の現状と課題—, 山形県高齢化社会研究所紀要, 17(2), 29-42, 1998.
- 安村誠司, 蘭牟田洋美, 吉田ひろみ, 桂 敏樹, 星野明子, 渡部由美, 鈴木育子, 後藤順子: 在宅ケアに関わる関連諸機関のネットワーク化に関する研究(2)—架空事例による保健・医療・福祉サービスの提供—, 山形県高齢化社会研究所紀要, 17(2), 43-65, 1998.
- 後藤順子, 安村誠司, 蘭牟田洋美, 吉田ひろみ, 桂 敏樹, 星野明子, 渡部由美, 鈴木育子: 在宅ケアに関わる関連諸機関のネットワーク化に関する研究(3)—老人保健福祉計画について—, 山形県高齢化社会研究所紀要, 17(2), 66-76, 1998.
- 星野明子, 庄司優子, 大戸さとみ, 川村明美, 佐々木明子, 桂 敏樹: 在日外国人の子育て不安に関する研究, 北日本看護学会誌, 1(1), 9-16, 1998.
- 桂 敏樹, 野尻雅美, 中野正孝: 地域住民における生活習慣と食習慣の関連構造に関するパターン分析, 日本健康医学会誌, 7(1), 22-26, 1998.
- 桂 敏樹, 野尻雅美, 中野正孝: 地域住民の健康づくりに関する研究—生活上の出来事とライフスタイルの変化との関連—, 日本農村医学会誌, 47(1), 1-10, 1998.
- 桂 敏樹, 渡部由美, 星野明子: 独居老人の孤独感を軽減する要因, 日本農村医学会誌, 47(1), 18-27, 1998.
- 祖父江育子: 臨床における看護研究の問題と解決策, 看護展望, 98(2): 90-97, 1998.
- 祖父江育子: 研究テーマのさがし方・活かし方, 看護管理, 8(1): 62-66, 1998.
- 祖父江育子: 文献のさがし方・取り寄せ方・整理の仕方, 看護管理, 8(2): 154-159, 1998.
- 祖父江育子: 文献検討の仕方, 看護管理, 8(3): 236-241, 1998.
- 祖父江育子: 目的と研究デザインの決め方, 看護管理, 8(4): 302-310, 1998.
- 祖父江育子: データの集め方・整理の仕方, 看護管理, 8(5): 400-408, 1998.
- 祖父江育子: 質的データの分析の仕方, 看護管理, 8(6): 480-487, 1998.
- 祖父江育子: 量的データの差の出し方, 看護管理, 8(7): 562-570, 1998.
- 祖父江育子: 2変数の関係の出し方, 看護管理, 8(8): 640-646, 1998.
- 祖父江育子: 結果のまとめ方—解析計画の作成, 看護管理, 8(9): 714-720, 1998.
- 祖父江育子: 考察のつくり方, 看護管理, 8(10): 798-805, 1998.
- 祖父江育子: 論文の書き方—原著論文の作成, 看護管理, 8(11): 889-896, 1998.
- 祖父江育子: 初心者への研究指導の仕方, 看護管理, 8(12): 950-957, 1998.
- 祖父江育子: 教員と臨床スタッフによる参画型共同研究の推進, 看護展望, 23(11): 33-35, 1998.
- 祖父江育子: 看護者が小児の遊びにかかわることの意味, 小児看護, 21(8): 1020-1024, 1998.

奥田弘恵, 祖父江育子: 看護学生の職業未決定について一職業未決定尺度の下位尺度作成による検討, 京都大学医療技術短期大学部紀要, 18: 9-14, 1998.

服部律子, 船戸正久, 島田誠一, 玉井普: 早産多胎児の発育と発達. 日本未熟児新生児学会雑誌, 10(1): 41-46, 1998.

服部律子, 荒賀直子, 船戸正久: 低出生体重児における離乳の指導と実際. 小児保健研究, 57(1): 32-39, 1998.

服部律子, 前原恵子: 双胎妊婦の妊娠中の異常と保健指導. 助産婦雑誌, 52(2): 129-133, 1998.

矢野恵子, 服部律子, 深川ゆかり, 坂上明子: 双子の母親の妊娠中から3歳頃までのサポートシステムに関する研究. 母性衛生, 39(1): 120-129, 1998.

服部律子, 船戸正久, 玉井普, 島田誠一, 佐藤益子: 極低出生体重児の精神行動発達. 日本未熟児新生児学会雑誌, 10(2): 61-68, 1998.

森忠三, 泉信夫, 西岡研哉, 服部律子: インフォームドコンセントの研究, 第1報 治癒する可能性の高い癌の告知に関するアンケート, 京都医学会雑誌45: 71-77, 1998.

服部律子, 任 和子: 看護学生の月経時の不定愁訴と抑うつ度. 思春期学, 16(4): 524-530, 1998.

服部律子: 双子のサークルをサポートする. 助産婦雑誌, 52(2): 101-105, 1998.

服部律子, 中嶋律子: 双胎妊婦への保健指導. ペリネイタルケア増刊, 210-217, 1998.

服部律子, 前原恵子, 木下純子, 船戸正久: 親子教室の実践と課題—低出生体重児への早期離床の試み. ネオネイタルケア, 11(1): 49-56, 1998.

服部律子: 専門職が関わる良さを生かして「ツインスターズ」の発足と活動. ツインズ, 25: 60-62, 1998.

片山由美, 岸下雅通: 医療従事者の衣類の汚染—ナースキャップおよび頭部の付着菌, *Guardian Angel*, 3(4): 16-19, 1998.

加茂映子, 中井義勝, 藤田正俊, 濱 弘道, 小西紀一, 我部山キヨ子, 稲本 俊, 荒川千登世, 任 和子, 前原恵子: 専門高等学校卒業生の入学選抜方法に関する調査研究—衛生看護学科卒業生の進路に関するアンケート調査—平成8年度短期大学入学者選抜方法研究委員会経費報告書, 1998. 2.

荒川千登世: ストレスってなんだろう? リラクゼーションってなんだろう? エキスパートナース看護学生版, 7(5)92, 1998.

荒川千登世: 音楽が体や心に与える影響, エキスパートナース看護学生版, 7(12), 92, 1998.

荒川千登世: 音楽でストレス緩和ケアができる? エキスパートナース看護学生版, 7(13), 92, 1998.

荒川千登世: こんな時患者さんに音楽を. エキスパートナース看護学生版, 7(15), 92, 1998.

3. 学会発表

Y. Nakai, F. Kurimoto, A. Taniguchi and M. Fukushima: Tumor necrosis factor- α (TNF- α) in anorexia nervosa. 4th International Congress of Neuroendocrinology, 1998. 11. 11-16, Kitakyushu, Japan.

中井義勝, 濱垣誠司, 加藤星河, 清野 裕, 高木隆郎, 栗本文彦: 病型別にみた摂食障害におけるレプチンの意義. 第71回日本内分泌学会総会, 1998. 6. 4-6, 福岡.

中井義勝: 単純性肥満症と摂食障害における摂食行動と身体イメージ及びその心理的背景. 第39回日本心身医学会総会. 1998. 6. 18-19, 新潟.

中井義勝: 摂食障害患者の血清コレステロール値. 第26回日本心身医学会近畿地方会, 1998. 7. 25, 奈良.

中井義勝: 摂食障害発症の危険因子について. 第17回日本思春期学会総会, 1998. 8. 21-22, 東京.

中井義勝: 単純性肥満症における摂食行動と身体イメージ及びその心理的背景. 第10回日本肥満学会総会, 1998. 10, 東京.

中井義勝: ストレスは摂食障害の発症にどの程度関与しているか. 第14回日本ストレス学会学

術総会, 1998. 11. 6-7, 東京.

植野正也, 増谷 弘, 山内清明, 二階堂敏雄, 中村 肇, 稲本 俊, 山岡義生, 淀井淳司: HIOREDOXIN (TRX) と Ref1 による P53 のレドックス制御. 第98回日本外科学会総会, 1998年4月, 東京.

河嶋 広, 松谷泰男, 植野正也, 中村 肇, 山内清明, 稲本 俊, 山岡義生: 乳癌とその転移リンパ節における Thymidylate Synthase (TS) 発現について. 第98回日本外科学会総会, 1998年4月, 東京.

山内清明, 河嶋 廣, 植野正也, 松谷恭男, 猪飼伊和夫, 稲本 俊, 山岡義生: 乳癌肝転移症例の予後と治療, 第6回日本乳癌学会総会, 1998年5月, 東京.

植野正也, 松谷泰男, 河嶋 廣, 山内清明, 稲本 俊, 淀井淳司, 山岡義生: 乳癌細胞の p53 転写機能のレドックス制御. 第6回日本乳癌学会総会, 1998年5月, 東京.

稲本 俊, 山内清明, 松谷泰男, 河嶋 廣, 植野正也, 中村 肇, 山岡義生: LH-RH-agonist を含めた内分泌化学療法が有効であった妊娠・授乳期乳癌の再発の2例. 第6回日本乳癌学会総会, 1998年5月, 東京.

Kumiko Toyoda, Chitose Arakawa, and Takashi Inamoto: Effects of warm foot bath as nursing care on mental, physical and immunological status. Third International Nursing Research Conference, 1998年8月, 東京.

Yumi Katayama, Ikuko Sobue, and Takashi Inamoto: Bacterial contamination of nursing student's caps and heads. Third International Nursing Research Conference, 1998年8月, 東京.

Takashi Inamoto, Hiroshi Kawashima, Akira Yamauchi, Masaya Ueno, Yasuo Matsutani, and Yoshio Yamaoka: Thymidine phosphorylase and 5-fluorouracil concentration in tumors and regional lymph nodes of breast cancer after 5'-deoxy-5-fluorouridine administration. 22nd Congress of IABCR, 1998年9月, Athens.

植野正也, 増谷 弘, 山内清明, 二階堂敏雄, 酒井敏行, 稲本 俊, 山岡義生, 淀井淳司: Thioredoxin (TRX)-Ref1 カスケードにおける p53 のレドックス制御. 第57回日本癌学会総会, 1998年9月, 横浜.

山内清明, 露木 茂, 稲本 俊, 山岡義生: 正常ヒト肝内 NK/NKT 細胞の解析と細胞内グルタチオンの重要性. 第57回日本癌学会総会, 1998年9月, 横浜.

稲本 俊, 四元文明, 鹿野 實, 岡村隆仁, 寺田信國, 小川博暉, 瀧 俊彦, 竹中 温, 藤野昇三, 大垣和久, 李 哲柱, 畑埜武彦: 乳癌に対する乳房温存手術と胸筋温存乳房切除術の成績の比較検討. 第36回日本癌治療学会, 1998年10月, 福岡.

堀 泰祐, 児玉 宏, 西村 理, 谷口亨一, 畑埜武彦, 藤井宏二, 工藤 昂, 稲本 俊, 安村忠樹, 平岡真寛 (京滋乳癌研究会第10次研究班): 進行・再発乳癌に対する DMpC 療法および CAF+MPA 療法の無作為比較試験. 第36回日本癌治療学会, 1998年10月, 福岡.

稲本 俊: 外科からみた日帰り手術の現状と将来. 第20回日本手術医学会総会, 1998年10月, 横浜.

月田早智子, 松井 毅, 前田賢人, 米村重信, 月田承一郎: ERM-アクチンシステムと細胞内情報伝達系, 第71回日本生化学会, 1998, 名古屋国際会議場.

Tsukita, Sa.: ERM proteins : from cytoskeleton to signal transductions., Keystone Symposia Endothelium, 1998, Incline Village.

月田承一郎, 前田賢人, 月田早智子: ERM 蛋白質群と NF2 蛋白質の構造と機能, 第57回日本癌学会, 1998, パシフィコ横浜.

前田賢人, 月田早智子, 佐々木卓也, 高井義美, 今村正之, 月田承一郎: メルリンと Rho GDI の相互作用, 日本癌学会第57回総会, 1998, パシフィコ横浜.

Hayashi, K., Yonemura, S., Matsui, T., Tsukita, Sa., Tsukita Sh.: A Novel Trichloroacetic Acid (TCA) Fixation Method for Immunocytochemistry: Application for the

Localization of COOH-terminal Threonine-phosphorylated Ezrin / Radixin / Moesin (ERM), Third Congress of the Asian-Pacific Organization for Cell Biology, 1998, Osaka.

Matsui, T., Amano, M., Kaibuchi, K., Tsukita, S., and Tsukita Sh.: Rho-kinase phosphorylates a carboxy-terminal threonine of ERM proteins and regulates their head-to-tail association., ASCB Annual Meeting, 1998, Moscone Convention Center.

月田承一郎, 前田賢人, 月田早智子: ERM 蛋白質群と NF2 蛋白質の構造と機能, 日本癌学会第57回総会, 1998, パシフィコ横浜.

御代田亜子, 星野明子, 桂 敏樹, 渡部由美, 舟山恵美, 大戸さとみ: 保母の子育てに関する研究(1)—子育て参加状況と参加意識の関連一, 第2回北日本看護学会, 1998. 8, 山形.

舟山恵美, 星野明子, 桂 敏樹, 渡部由美, 御代田亜子, 大戸さとみ: 保母の子育てに関する研究(2)—参加意識の構成要因一, 第2回北日本看護学会, 1998. 8, 山形.

星野明子, 桂 敏樹, 松谷さおり: 地域保健活動の効果に関する研究, 第52回日本公衆衛生学会, 1998. 10, 横浜.

青嶋智重子, 桂 敏樹, 渡部由美, 平塚朝子, 井上京子, 片桐智子: 在宅患者の在宅療養支援に果たす保健婦の機能, 第52回日本公衆衛生学会, 1998. 10, 横浜.

Ikuko Sobue, Yumi Katayama, Tatsuya Takeshita, Soichiro Maruyama, Kanehisa Morimoto: Factors reinforcing drinking behavior in male university students, International Nursing Research Conference, 158, 1998. 9. 16-18, Tokyo. Japan Academy of Nursing Science.

Yuko Tomari, Ikuko Sobue, Kimiwa Itami: The influence of grandchildren on QOL of the elderly, Third International Nursing Research Conference, 270, 1998. 9. 16-18, Tokyo. Japan Academy of Nursing Science.

Yoko Mitomi, Ikuko Sobue, Junko Yamamoto, Yuzo Yamamoto, Iwao Ikai, Yoshio

Yamaoka: Postoperative nursing care of living related donors in liver transplantation, 16th World Congress Collegium International Chirurgiae Digestivae, 1998. 9. 16 - 19, Baruselona.

上羽和美, 亀井弘美, 新宮洋子, 祖父江育子: 終末期にある小児に希望を持たず看護—ナイチンゲール看護論により分析する, 近畿地区看護学会, 奈良, 1998. 2. 12-13.

松岡 健, 佐藤千鶴子, 西田由美子, 祖父江育子: 人工骨置換術例の退院指導による効果, 京都府看護研究発表会第3回集録集, 59-62, 1998, 京都, 1998. 2. 20.

下志方洋子, 垣田朋子, 齊藤美耶子, 祖父江育子: 臨床看護婦が行う看護研究に関する実態調査, 京都府看護研究発表会第3回集録集, 27-30, 1998, 京都, 1998. 2. 20.

浅田英子, 北澤幸枝, 祖父江育子: 月経が精神疾患患者に及ぼす影響—アンケート調査から比較検討, 日本精神保健看護学会抄録, 53-54, 1998, 東京, 1998. 6. 6-7.

奥田弘恵, 祖父江育子, 豊田久美子, 荒川千登世, 亀山美智子: 看護学生の看護志望動機と学校適応, 日本看護研究学会近畿・北陸・中国・四国地方会第11回学術集会抄録, 52, 1998, 倉敷, 1998. 3. 28.

三上順子, 祖父江育子, 多久和練, 古川良子, 名定美保, 杉本登美代, 矢部久枝, 竹下達也, 丸山総一郎, 森本兼囊: 遺伝素因と飲酒行動の関連—男子大学生の場合, 日本看護研究学会近畿・北陸・中国・四国地方会第11回学術集会抄録, 58, 1998, 倉敷, 1998. 3. 28.

多久和練, 祖父江育子, 三上順子, 古川良子, 矢部久枝, 名定美保, 杉本登美代, 竹下達也, 丸山総一郎, 森本兼囊: 飲酒量・飲酒頻度と飲酒行動の関連—男子大学生の場合, 日本看護研究学会近畿・北陸・中国・四国地方会第11回学術集会抄録, 59, 1998, 倉敷, 1998. 3. 28.

祖父江育子, 多久和練, 古川良子, 三上順子, 杉本登美代, 矢部久枝, 名定美保, 竹下達也, 丸山総一郎, 森本兼囊: 遺伝素因と飲酒行動の関連—女子大学生の場合, 日本看護研究学会近

畿・北陸・中国・四国地方会第11回学術集会抄録, 60, 1998, 倉敷, 1998. 3. 28.

古川良子, 祖父江育子, 三上順子, 多久和練, 杉本登美代, 矢部久枝, 名定美保, 竹下達也, 丸山総一郎, 森本兼曩: 飲酒量・飲酒頻度と飲酒行動の関連—女子大学生の場合, 日本看護研究学会近畿・北陸・中国・四国地方会第11回学術集会抄録, 61, 1998, 倉敷, 1998. 3. 28.

三上順子, 祖父江育子, 多久和練, 古川良子, 名定美保, 杉本登美代, 矢部久枝, 竹下達也, 丸山総一郎, 森本兼曩: 遺伝素因と飲酒行動の関連—体育系クラブに所属している男子大学生の場合, 第24回日本看護研究学会学術集会, 1998. 7. 30-31, 弘前, 日本看護研究学会雑誌, 21(3): 152, 1998.

多久和練, 祖父江育子, 古川良子, 名定美保, 杉本登美代, 矢部久枝, 三上順子, 竹下達也, 丸山総一郎, 森本兼曩: 遺伝素因と飲酒行動の関連—文化系クラブに所属している男子大学生の場合, 第24回日本看護研究学会学術集会, 1998. 7. 30-31, 弘前, 日本看護研究学会雑誌, 21(3): 153, 1998.

古川良子, 祖父江育子, 名定美保, 杉本登美代, 矢部久枝, 三上順子, 竹下達也, 丸山総一郎, 森本兼曩: 飲酒行動における遺伝素因と社会的要因の関連(1)—遺伝素因による飲酒行動比較, 第24回日本看護研究学会学術集会, 1998. 7. 30-31, 弘前, 日本看護研究学会雑誌, 21(3): 154, 1998.

祖父江育子, 名定美保, 杉本登美代, 矢部久枝, 三上順子, 多久和練, 古川良子, 竹下達也, 丸山総一郎, 森本兼曩: 飲酒行動における遺伝素因と社会的要因の関連(1)—社会的要因(所属クラブ)による飲酒行動比較, 第24回日本看護研究学会学術集会, 1998. 7. 30-31, 弘前, 日本看護研究学会雑誌, 21(3): 155, 1998.

名定美保, 祖父江育子, 杉本登美代, 矢部久枝, 三上順子, 多久和練, 古川良子, 竹下達也, 丸山総一郎, 森本兼曩: 遺伝素因と社会的飲酒行動の関連—体育系クラブに所属する男子大学生の場合, 第24回日本看護研究学会学術集会, 1998. 7. 30-31, 弘前, 日本看護研究学会雑誌, 21(3): 156, 1998.

杉本登美代, 祖父江育子, 矢部久枝, 三上順子, 多久和練, 古川良子, 名定美保, 竹下達也, 丸山総一郎, 森本兼曩: 遺伝素因と社会的飲酒行動の関連—文化系クラブに所属する男子大学生の場合, 第24回日本看護研究学会学術集会, 1998. 7. 30-31, 弘前, 日本看護研究学会雑誌, 21(3): 157, 1998.

矢部久枝, 祖父江育子, 三上順子, 多久和練, 古川良子, 名定美保, 杉本登美代, 竹下達也, 丸山総一郎, 森本兼曩: 遺伝素因と社会的飲酒行動の関連—Non-flusher は Flusher よりも無理強いするか, 第24回日本看護研究学会学術集会, 1998. 7. 30-31, 弘前, 日本看護研究学会雑誌, 21(3): 158, 1998.

祖父江育子, 三上順子, 多久和練, 古川良子, 名定美保, 杉本登美代, 矢部久枝, 竹下達也, 丸山総一郎, 森本兼曩: 遺伝素因と社会的飲酒行動の関連—体育系クラブ所属者は文化系クラブ所属者よりも無理強いするか, 第24回日本看護研究学会学術集会, 1998. 7. 30-31, 弘前, 日本看護研究学会雑誌, 21(3): 159, 1998.

森脇志保, 北島さゆり, 祖父江育子: 痛みのケアにおけるマッサージの効果, 第24回日本看護研究学会学術集会, 1998. 7. 30-31, 弘前, 日本看護研究学会雑誌, 21(3): 92, 1998.

坂口恵美子, 児玉佳代子, 林利子, 祖父江育子: プリセプターの役割達成感に関連する要因, 第24回日本看護研究学会学術集会, 1998. 7. 30-31, 弘前, 日本看護研究学会雑誌, 21(3): 258, 1998.

奥田弘恵, 祖父江育子: 看護学生の小児感染症調査—自己抗体と抗体測定結果の比較, 第24回日本看護研究学会学術集会, 1998. 7. 30-31, 弘前, 日本看護研究学会雑誌, 21(3): 108, 1998.

服部律子, 中嶋律子: 双子の母親の育児ストレスと家族支援. 第5回日本家族看護学会学術集会. 1998. 9. 12, 神奈川.

中嶋律子, 服部律子, 皆川貴子, 戸塚ひろ子: 双胎妊娠に対する保健指導の実際. 第39回日本母性衛生学会学術集会. 1998. 10. 2, 群馬. 母性衛生, 39(3): 103. 1998.

服部律子, 皆川貴子, 中嶋律子, 島田誠一: 双子育児のサポートシステムと育児支援. 第45回日本小児保健学会. 1998. 10. 2, 東京. 第45回日本小児保健学会講演集158-159, 1998.

佐藤益子, 服部律子, 荒賀直子, 船戸正久: 極低出生体重児の就学前後における身体発育・行動発達に關与する背景因子の解析. 第45回日本小児保健学会. 1998. 10. 2, 東京. 第45回日本小児保健学会講演集, 372-373, 1998.

Uchida H, Tanigaki S: The Effect of Changing Position and Body Massage in Restrained Persons with Anxiety on EEG, 3th International Nursing Research Conference, 1998. 9. 16-18, Tokyo.

内田宏美, 太田敦子, 長尾 文, 山脇典子, 植村佐和子, 徳山智恵, 水谷奈緒子: インフォームド・コンセントをめぐる認識の“ズレ”が問いかけるもの. 第10回日本生命倫理学会年次大会, 1998. 10. 17-18, 明石.

任 和子, 荒川千登世: 高等学校衛生看護学科生徒の看護系養成機関に進学して学びたい科目について. 第8回日本看護学教育学会学術集会, 1998. 8. 4-5, 小倉, 日本看護学教育学会, 8(2): 104, 1998.

荒川千登世, 任和子: 高等学校衛生看護学科生徒の卒業後の進路に対する希望と現実, 第8回日本看護学教育学会学術集会, 1998. 8. 4-5, 小倉, 日本看護学教育学会, 8(2): 128, 1998.

荒川千登世, 内田宏美, 豊田久美子, 任 和子: 学生の自己評価からみた成人外科系実習の課題(平成9年度). 第8回日本看護学教育学会学術集会, 1998. 8. 4-5, 小倉, 日本看護学教育学会, 8(2): 150, 1998.

Chitose Arakawa, Kumiko Toyoda, and Takashi Inamoto: Effects of music on the mental state and physical conditions of post-operative patients. Third International Nursing Research Conference, 1998年8月, 東京.

衛生技術学科

論 文

Asagoe K, Yamamoto K, Takahashi A, Suzu-

ki K, Maeda A, Nohgawa M, Harakawa N, Takano K, Mukaida N, Matsushima K, Okuma M, Sasada M: Downregulation of CXCR2 expression on human polymorphonuclear leukocytes by TNF- α . *J Immunol*, 160: 4518-4525, 1998.

Hirata H, Takahashi A, Kobayashi S, Yonehara S, Sawai S, Okazaki T, Yamamoto K, Sasada M: Caspases are activated in a branched protease cascade and control distinct downstream processes in Fas-induced apoptosis. *J Exp Med*, 187(4): 587-600, 1998.

Maeda A, Yamamoto K, Yamashita K, Asagoe K, Nohgawa M, Kita K, Iwasaki H, Ueda T, Takahashi A, Sasada M: The expression of co-stimulatory molecules and their relationship to the prognosis of human acute myeloid leukemia: poor prognosis of B7-2-positive leukaemia. *Br J Haematol*, 102: 1257-1262, 1998.

前田明則, 山本孝吉, 小刀禰裕子, 山下浩平, 吉永尚子, 平田大二, 浅越康助, 直川匡晴, 高橋 淳, 大野仁嗣, 田嶋政郎, 笹田昌孝: 同種骨髓移植後再発に対し, ドナーリンパ球輸注療法後 IFN- α 投与が奏効し再寛解に至った慢性骨髓性白血病. *臨床血液*, 39(6): 442-446, 1998.

Yoshida Y, Fujita M, Kihara Y, Kubo S, Tanaka T, Iwase T, Tamaki S, Sato T, Park CH, Yamazato A: Assessment of longterm left internal thoracic artery graft patency by exercise Doppler echocardiography. *J Thorac Cardiovasc Surg*, 115(4): 954-956, 1998.

Tanaka T, Hasegawa K, Fujita M, Tamaki S, Yamazato A, Kihara Y, Nohara R, Sasayama S: Marked elevation of brain natriuretic peptide levels in pericardial fluid is closely associated with left ventricular dysfunction. *J Am Coll Cardiol*, 31(2): 399-403, 1998.

Nohara R, Hosokawa R, Hirai T, Okuda K, Ogino M, Fujibayashi Y, Fujita M, Sasayama S: Effect of metabolic substrate on BMIPP metabolism in canine myocardium. *J Nucl Med*, 39(7): 1132-1137, 1998.

- Fujita M, Ikemoto M, Tanaka T, Tamaki S, Yamazato A, Sawamura T, Hasegawa K, Kihara Y, Nohara R, Sasayama S: Marked elevation of vascular endothelial growth factor and basic fibroblast growth factor in pericardial fluid of patients with angina pectoris. *Angiogenesis*, 2(1):105-108, 1998.
- Fujita M, Tanaka T, Nakae I, Tamaki S, Kihara Y, Nohara R, Sasayama S: Importance of α 1-sympathetic activity for diurnal change in ischemic threshold in patients with stable angina. *Clin Cardiol*, 21(5):357-361, 1998.
- Tanaka T, Fujita M, Nakae I, Tamaki S, Hasegawa K, Kihara Y, Nohara R, Sasayama S: Improvement of exercise capacity by saropogrelate as a result of augmented collateral circulation in patients with effort angina. *J Am Coll Cardiol*, 32(7):1982-1986, 1998.
- Yamamoto Y, Fujita M, Kihara Y, Sekiguchi H, Eiho S, Nakae I, Kubo S: Automatic processing of myocardial contrast echocardiograms of intravenous injection of contrast. *Ann Rep Coll Med Tech, Kyoto Univ*, 18:35-41, 1998.
- Qian Y, Eiho S, Sugimoto N, Fujita M: Automatic extraction of coronary artery tree on coronary angiograms by morphological operators. *Comput Cardiol* 1998, 25:765-768, 1998.
- 藤田正俊, 江尻倫昭, 新家悦朗, 神保正樹, 平岡勇二, 大野 晃, 三羽邦久, 木原康樹: 経皮吸収型ニトログリセリン製剤の耐性—パッチ製剤とテープ製剤の比較—。 *医学と薬学*, 39(4):787-791, 1998.
- 増田大輔, 野原隆司, 藤田正俊: ヘパリン運動療法。 *Cardiologist*, 3(4):251-254, 1998.
- 増田大輔, 野原隆司, 藤田正俊, 篠山重威: Enhanced External Counterpulsation (EECP) 施行後 201Tl-SPECT 画像の改善を認めた無症候性心筋虚血の1例。 *循環器科*, 43(6):549-550, 1998.
- 藤田正俊: 最先端医療を語る44; 血管新生療法。 *MEDICO*, 29(9):32-35, 1998.
- 岩倉 篤, 米田正始, 藤田正俊: 冠狭窄と血管新生機構。 *日本臨牀*, 56(10):46-50, 1998.
- 藤田正俊: 時間生物学的治療。 *OsakaHeartClub*, 22(4):13-14, 1998.
- 藤田正俊: Ca拮抗薬は心臓にとって敵か味方か。 *ProgMed*, 18(10):105-107, 1998.
- 藤田正俊: 虚血性心疾患に対する血管新生療法の開発。 *上原記念生命科学財団研究報告集*, 12:407-409, 1998.
- 藤田正俊: 虚血性心疾患に対する血管新生療法の開発。 *循環器病研究振興財団研究助成業績報告集(平成9年度)*, 43-46, 1998.
- Amenomori M, Mori T, Fukuda Y, Sugawa H, Nishida N, Furukawa M, Kita R, Sando T, Komeda T and Nakao K: Incidence and Characteristics of Thyroid Dysfunction Following Interferon Therapy in Patients with Chronic Hepatitis C. *Internal Medicine*, 37(3):246-252, 1998.
- 福田善弘, 西田直生志: 消化器 肝癌。 *Molecular Medicine*, vol. 35臨時増刊号症候・病態のメカニズム:169-171, 1998.
- 田畑勝好: 検査試薬としての酵素の使い方。 *化学と生物*, 36(1):51-56, 1998.
- Muralidhar S, Pumfer AM, Hassni M, Sadaie MR, Kishishita M, Brady JN, Doniger J, Medveczky P, Rosenthal LJ: Identification of kaposin (open reading frame K12) as a human herpesvirus 8 (Kaposi's sarcoma-associated herpesvirus) transforming gene. *J Virol*, 72(6):4980-4988, 1998.
- Ikemoto M, Tsunekawa S, Tanaka K, Tanaka A, Yamaoka Y, Ozawa K, Fukuda Y, Moriyasu F, Totani M, Kasai Y, Mori T, Ueda K: Liver-type arginase in serum during and after liver transplantation: a novel index in monitoring conditions of the liver graft and its clinical significance. *Clin Chim Acta*, 271:11-23, 1998.

著 書

笹田昌孝: 感染症治療におけるサイトカインの臨床応用。「感染症とサイトカイン防御と病態

形成の両面性」今西二郎，笹田昌孝編，p. 193-203，医薬ジャーナル社，1998。

笹田昌孝：顆粒球減少症（無顆粒球症）。「今日の治療指針1998年版」日野原重明，阿部正和監修，多賀須幸男，尾形悦郎総編，p. 532-533，医学書院，1998。

笹田昌孝：好中球の機能亢進総説。「好中球—機能低下と機能亢進—」笹田昌孝編，p. 161-166，(株)医薬ジャーナル社，1998。

笹田昌孝：好中球機能の解明—遊出機序を中心に。「Immunoematology Update 6」内山 卓監修，(株)ファーマインターナショナル，1998。

前田明則，笹田昌孝：単球・マクロファージを活性化するサイトカイン。炎症と免疫，6(3)：246-251，1998。

笹田昌孝：特集／好中球—新しい視点—生体防御における好中球の位置づけ。Surgery Frontier，5(2)：123-128，1998。

笹田昌孝：痛風・高尿酸血症の治療のポイント。枚方市医師会会報，45号：25-27，1998。

笹田昌孝：痛風治療のコツ食事療法のポイント。メディカル朝日，314号：30，1998。

藤田正俊：冠側副血行循環。「冠循環の調節と破綻—微小循環を中心に」三浦 傳編，p. 89-93，医歯薬出版株式会社，1998。

藤田正俊：Transmyocardial Revascularization。「'97 AHA Highlights」篠山重威編，p. 104-107，メディカル・ジャーナル社，1998。

平井忠和，藤田正俊：心室瘤。「循環器疾患最新の治療1998-1999」篠山重威，矢崎義雄編，p. 26-30，南江堂，1998。

中江 出，藤田正俊：心血管系の解剖と生理。「エクセルナース（循環器編）」神原啓文，金崎玉恵監，p. 2-10，メディカルレビュー社，1998。

藤田正俊：冠動脈硬化の危険因子。「ナースのための冠疾患事典（1998年ハートナーシング秋季増刊）」藤田正俊監，p. 66-72，メディカ出版，1998。

藤田正俊：Ca拮抗薬の抗虚血作用機序。「Ca拮抗薬読本（治療学別冊）」藤島正敏監，桑島巖編，p. 20，ライフサイエンス出版，1998。

井本 勉，福田善弘：肝炎ウイルス以外のウイルス性肝障害。「Bed Side ノートシリーズ 肝炎」p. 205-215，現代医療社，1998。

吉永孝之，福田善弘：症候 1. 症候理解のための肝・胆道系の生理・生化学。1. 8. 肝とホルモン。肝臓病学「Clinical Science」戸田剛太郎ら編，p. 42-44，医学書院，1998。

福田善弘：感染治療におけるサイトカインの臨床応用 2. インターフェロンによるB型肝炎の治療。防御と病態形成の両面性「感染症とサイトカイン」今西二郎，笹田昌孝編，p. 214-227，医薬ジャーナル社，1998。

田畑勝好：診断用材料。「21世紀の天然・生体高分子材料」宮本武明，赤池敏宏，西成勝好編，p. 346-352，シーエム・シ社，1998。

木戸隆宏，上田國寛：遺伝子検査。「実践臨床検査医学」大久保昭行，中井利昭，渡辺清明編，p. 87-90，文光堂，1998。

学会発表

笹田昌孝：造血管腫瘍の治療におけるサイトカインの展望 I. 感染症治療。第60回日本血液学会ランチョンセミナー，1998. 3. 25-27，大阪。

前田明則，竹岡友晴，北 堅吉，岩崎博道，上田孝典，山本孝吉，笹田昌孝：急性骨髄性白血病の予後における B7-2 発現の重要性。第60回日本血液学会，1998. 3. 25-27，大阪，Int J Hematol，67(Suppl 1)：79，1998。

浅越康助，高橋 淳，山本孝吉，鈴木和男，向田直史，松島綱治，笹田昌孝：TNF α の好中球 IL-8R 発現に及ぼす影響。第60回日本血液学会，1998. 3. 25-27，大阪，Int J Hematol，67(Suppl 1)：130，1998。

直川匡晴，山下浩平，平田大二，吉永尚子，浅越康助，前田明則，高野邦子，高橋 淳，山本孝吉，笹田昌孝：好中球の血管外遊走における nitric oxide (NO) の関与。第60回日本血液学会，1998. 3. 25-27，大阪，Int J Hematol，67(Suppl 1)：130，1998。

山下浩平，高橋 淳，小林 進，平田大二，前田明則，山本孝吉，笹田昌孝：好中球アポトーシスの機序解析並びにアポトーシスと好中球機

能の関連について. 第60回日本血液学会, 1998. 3. 25-27, 大阪, *Int J Hematol*, 67(Suppl 1):131, 1998.

中坊幸晴, 前田明則, 山本孝吉, Michael J. Pabst, 笹田昌孝: 単球のプライミングおよび活性化におけるセラミドの関与について. 第60回日本血液学会, 1998. 3. 25-27, 大阪, *Int J Hematol*, 67(Suppl 1):134, 1998.

高野邦子, 平田大二, 吉永尚子, 浅越康助, 前田明則, 山本孝吉, 笹田昌孝: $\beta 2$ インテグリンのクロスリンクによる好中球 Fc γ RI (CD64) 誘導の機序解析. 第60回日本血液学会, 1998. 3. 25-27, 大阪, *Int J Hematol*, 67(Suppl 1):130, 1998.

吉永尚子, 山下浩平, 平田大二, 浅越康助, 前田明則, 直川匡晴, 高野邦子, 高橋 淳, 山本孝吉, 成宮 周, 笹田昌孝: 好中球の細胞運動におけるシグナル伝達経路の解析—Rho の関与について. 第60回日本血液学会, 1998. 3. 25-27, 大阪, *Int J Hematol*, 67(Suppl 1):129, 1998.

平田大二, 高橋 淳, 小林 進, 山下浩平, 山本孝吉, 笹田昌孝: Fas誘導アポトーシスにおけるプロテアーゼ・カスケードのアフィニティー・ラベリング法による検討. 第60回日本血液学会, 1998. 3. 25-27, 大阪, *Int J Hematol*, 67(Suppl 1):122, 1998.

小林 進, 高橋 淳, 平田大二, 山下浩平, 前田明則, 高野邦子, 山本孝吉, 笹田昌孝: フローサイトメトリー法を用いたアポトーシス細胞死の解析と, 活性化 caspases の役割の検討. 第60回日本血液学会, 1998. 3. 25-27, 大阪, *Int J Hematol*, 67(Suppl 1):122, 1998.

山本孝吉, 前田明則, 山下浩平, 小林 進, 岡 諭, 竹岡友晴, 吉永尚子, 平田大二, 浅越康助, 直川匡晴, 高野邦子, 高橋 淳, 平岡 諒, 正岡 徹, 笹田昌孝: 急性白血病化学療法後白血球減少時の感染症に対する M-CSF 有効性の検討. 第72回日本感染症学会総会, 1998. 4. 22-23, 大阪, *感染症学雑誌*, 72(10):1156, 1998.

平田大二, 高橋 淳, 山本孝吉, 笹田昌孝, 内山 卓: Fas 誘導アポトーシスにおける cas-

pase cascade のアフィニティー・ラベリング法を用いた解析. 第57回日本癌学会総会, 1998. 9. 30-10. 2, 横浜, *Jpn J Cancer Res*, 89 (Suppl), 1998.

前田明則, 宮原裕子, 山下浩平, 伊藤 満, 平田大二, 吉永尚子, 大野仁嗣, 山本孝吉, 内山卓, 笹田昌孝: 父親からの末梢血 CD34 陽性細胞移植を行った急性骨髄単球性白血病の成人例. 第40回日本臨床血液学会総会, 1998. 11. 11-13, 金沢, *臨床血液*, 39(10):809, 1998.

中坊幸晴, 前田明則, 山本孝吉, Michael J. Pabst, 笹田昌孝: Sphingosine は IL-2 で活性化したヒト単球の白血病細胞に対する傷害活性を抑制する. 第40回日本臨床血液学会総会, 1998. 11. 11-13, 金沢, *臨床血液*, 39(10):755, 1998.

吉永尚子, 山本孝吉, 笹田昌孝, 内山 卓, 月田早智子: 好中球の細胞運動におけるシグナル伝達経路の解析—REM の関与について. 第40回日本臨床血液学会総会, 1998. 11. 11-13, 金沢, *臨床血液*, 39(10):755, 1998.

浅越康助, 高橋 淳, 山本孝吉, 内山 卓, 尾崎承一, 笹田昌孝, 鈴木和男, 向田直史, 松島綱治: ベーチェット病好中球 IL-8 receptor 発現の検討. 第40回日本臨床血液学会総会, 1998. 11. 11-13, 金沢, *臨床血液*, 39(10):755, 1998. 笹田昌孝: 好中球の機能亢進. 第30回日本小児感染症学会特別講演, 1998. 11. 6-7, 松本, 第30回日本小児感染症学会プログラム・抄録集, 38頁.

笹田昌孝: 感染症に対する好中球の生体防御機能. 第15回 Japan Immunology Seminar, 1998. 11. 21, 東京.

浅越康助, 笹田昌孝: 好中球の機能亢進. 第70回近畿血液学地方会シンポジウム, 1998. 11. 28, 神戸.

山下浩平, 高橋 淳, 小林 進, 山本孝吉, 内山 卓, 笹田昌孝: TNF- α 誘導好中球アポトーシスにおける caspases の役割. 第28回日本免疫学会総会・学術集会, 1998. 12. 2-4, 神戸, *日本免疫学会総会・学術集会記録*, 28:236, 1998.

Hirata H, Kobayashi S, Yamashita K, Okazaki T, Sawai H, Takahashi A, Yamamoto K, Uchiyama T, Sasada M: Dissection of caspase cascade in Fas-induced apoptosis. 40th Annual Meeting of the American Society of Hematology, Dec. 4-8, 1998, Florida.

Tanaka T, Fujita M, Sawamura T, Hasegawa K, Kihara Y, Nohara R, Yamazato A, Sasayama S: Apoptosis of vascular endothelial cells by pericardial fluid of patients with unstable angina. The 47th Annual Scientific Session of the American College of Cardiology, 1998. 3. 29-4. 1, Atlanta.

Tanaka T, Fujita M, Tsubokawa A, Nakae I, Iwase T, Ueda K, Tamaki S, Nohara R, Sasayama S: Improvement of exercise capacity by sarpogrelate as a result of increased collateral blood flow in patients with effort angina. The 47th Annual Scientific Session of the American College of Cardiology, 1998. 3. 29-4. 1, Atlanta.

Fujita M: Usefulness of 5HT_{2A} blocker for effort angina. Meeting of New Approach for Ischemic Heart Disease, 1998. 10. 6, Tokyo.

Iwakura A, Fujita M, Sawamura T, Hasegawa K, Kihara Y, Nohara R, Yamazato A, Komeda M: Induction of apoptosis of vascular endothelial cells by pericardial fluid of patients undergoing coronary artery bypass surgery. The 71st Scientific Meeting of the American Heart Association, 1998. 11. 8-11, Dallas.

藤田正俊: 老人の心筋梗塞の特徴. 名張市立病院セミナー, 1998. 1. 16, 名張.

藤田正俊: 冠側副血行循環の臨床研究. 天理循環器セミナー, 1998. 2. 21, 天理.

藤田正俊, 篠山重威: 虚血性心疾患に対する血管新生療法. 第62回日本循環器学会総会パネルディスカッション, 1998. 3. 26-28, 東京.

藤田正俊: 冠疾患に対する血管新生療法の臨床応用への展開. 第59回冠循環談話会, 1998. 3. 27, 東京.

藤田正俊: 狭心症治療薬としてのCa拮抗薬の

位置づけ. 伊丹市内科テレフォンカンファレンス, 1998. 4. 23, 京都.

藤田正俊: 血管新生療法におけるbFGFの位置づけ. 弘前大学第2内科セミナー, 1998. 4. 28, 弘前.

藤田正俊: 冠側副血行循環の臨床病態. 島根県医師会学術講演会, 1998. 5. 16, 松江.

藤田正俊: 冠動脈疾患に対する血管新生療法. 徳島県医師会学術講演会, 1998. 5. 29, 徳島.

藤田正俊: 循環器臨床の21世紀への展望: 虚血性心疾患. 京都府医師会学術講演会, 1998. 7. 18, 京都.

藤田正俊: 虚血性心疾患に対する血管新生療法. 第5回CVフォーラム, 1998. 9. 4, 仙台.

藤田正俊: 虚血性心疾患に対する血管新生療法. 第18回福島心疾患治療談話会, 1998. 9. 5, 福島.

藤田正俊, 田仲輝光, 中江 出, 田巻俊一, 長谷川浩二, 木原康樹, 野原隆司, 篠山重威: サルボグレラートの抗狭心症作用: 冠側副血行循環の有無による相違. 第46回日本心臓病学会, 1998. 9. 9-11, 東京.

藤田正俊: 虚血性心疾患と日内変動: 時間生物学的治療. 大阪ハートクラブ循環器学術セミナー, 1998. 9. 17, 大阪.

藤田正俊: 冠疾患とAngiogenesis: 冠疾患での血管新生の臨床病態. 第5回表蔵王心臓・血管討論会, 1998. 9. 19-20, 蔵王.

藤田正俊: 狭心症治療薬としてのCa拮抗薬の位置づけ. 山形市医師会テレフォンカンファレンス, 1998. 10. 1, 京都.

藤田正俊: 虚血性心疾患の血管新生療法. 高知市医師会テレフォンカンファレンス, 1998. 10. 15, 京都.

Nishida N, Fukuda Y, Kokuryu H and Nakao K: Hypomethylation of c-myc and c-fos genes in chronic hepatitis/liver cirrhosis and hepatocellular carcinoma. 11th World Congresses of Gastroenterology, 9. 6-11, 1998, Vienna.

西田直生志, 西村貴文, 勝間寛和, 井上 基,

畦地英全, 皆田睦子, 松岡陽子, 中尾一和, 福田善弘: 慢性肝疾患における癌遺伝子の低メチル化. 第95回日本内科学会, 1998. 4. 10, 福岡.

皆田睦子, 米田俊貴, 福田善弘: 血中癌細胞の検出から見た肝細胞癌の転移再発とその予後に関する検討. 第34回日本肝癌研究会, 1998. 10. 14, 金沢.

勝間寛和, 高橋輝, 角謙介, 西村貴文, 井上基, 畦地英全, 皆田睦子, 松岡陽子, 西田直生志, 中尾一和, 福田善弘: 眼内炎を契機に発見された肝膿瘍の一例. 第156回日本内科学会近畿地方会, 1998. 9. 19, 大阪.

井上基, 傍島淳子, 上杉裕子, 尾崎承一, 西村貴文, 勝間寛和, 畦地英全, 皆田睦子, 松岡陽子, 西田直生志, 中尾一和, 福田善弘: 自己免疫性肝疾患, 特に自己免疫肝炎における新しい自己抗体, 抗HMG1/HMG2抗体の検討. 第30回京都肝疾患懇話会, 1998. 2. 21, 京都.

西村貴文, 勝間寛和, 井上基, 畦地英全, 皆田睦子, 松岡陽子, 西田直生志, 中尾一和, 福田善弘: 肝癌組織におけるTTVDNAの検索. 第31回京都肝疾患懇話会, 1998. 7. 11, 京都.

田畑勝好: バイオリアクターを中核とする希釈血液成分の高感度FIA—化学発光分析. 第45回日本臨床病理学会, 1998, 11, 11-13, 高知市, 臨床病理, 46(補冊), 124, 1998.

恒川昭二, 池本正生, 島袋潔, 斎藤俊雄, 田中明, 山岡義生: 肝切除術中における肝特異的アルギナーゼの血中動態の解析—肝臓に対する外科的侵襲の指標となりうるか, 日本外科学会, 抄録集, Vol. 99, p. 328, 1998.

池本正生, 恒川昭二, 田中明, 山岡義生, 戸谷誠之, 上田國寛: 肝障害における尿素サイクル系酵素の変動とその逸脱性について, 日本生化学会, 抄録集, Vol. 70, p. 1004, 1998.

恒川昭二, 池本正生, 島袋潔, 福井潔, 斎藤俊雄, 田中明, 山岡義生: 血中肝特異的アルギナーゼ測定による肝臓に対する外科的侵襲の定量化, 日本生化学会, 抄録集, Vol. 70, p. 1005, 1998.

池本正生, 恒川昭二, 田中紘一, 笠井康成, 戸

谷誠之, 上田國寛: 生体肝移植後におけるヒト肝アルギナーゼ自己抗体の血中における変動とその臨床的意義について, 日本臨床化学会, 抄録集, Vol. 26, p. 60, 1998.

笹山哲, 吉田真平, 井街悠: インターネットを利用した運動処方提供システムの拡張. 情報処理学会第57回全国大会, 1998. 10. 5-7, 名古屋, 情報処理学会第57回全国大会講演論文集, 4: 275-276, 1998.

小野俊郎, 安藤真美, 笹山哲: WWWを利用した管理栄養士国家試験向き学習システムの構築. 情報処理学会第57回全国大会, 1998. 10. 5-7, 名古屋, 情報処理学会第57回全国大会講演論文集, 4: 362-363, 1998.

YuImachi, Satoshi Sasayama, Shinpei Yoshida: Development of an interactive exercise prescription system utilizing the Internet. 第53回日本体力医学会大会, 1998. 9. 16-18, 横浜, 体力科学, 47(6): 733, 1998.

金尚憲, 山下謙智, 井街悠, 笹山哲, 吉田真平: 股関節動作の違いが膝関節最大伸展力に及ぼす影響. 第53回日本体力医学会大会, 1998. 9. 16-18, 横浜, 体力科学, 47(6): 712, 1998.

中村紀士子, 佐々木豊, 高橋隆幸: ヒト好酸性前駆細胞の分化に対するクロロキンの影響: 好塩基球コロニーの誘導. 日本臨床病理学会総会, 1998. 11. 11-13, 高知, 臨床病理, 46補冊, 156, 1998.

中村紀士子, 佐々木豊, 高橋隆幸: ヒト好酸性前駆細胞の分化に対するクロロキンの影響: 好塩基球コロニーの誘導. 日本臨床病理学会総会, 1998. 11. 11-13, 高知, 臨床病理, 46補冊, 156, 1998.

理学療法学科

論文

濱弘道: 関頭に立つ理学療法—アートとサイエンスの融合—. 理学療法学, 25: 463-466, 1998.

濱弘道: 骨盤牽引と体位変換. 整形外科看護, 3: 96-97, 1998.

濱 弘道：書評；整形外科用語マニュアル第2版. 臨床整形外科, 33 : 35, 1998.

Li J.-L, Ding Y.-Q, Li Y.-Q, Li J.-S, Nomura S, Kaneko T, Mizuno N : Immunocytochemical localization of μ -opioid receptor in primary afferent neurons containing substance P or calcitonin gene-related peptide : A light and electron microscope study in the rat. Brain Research, 794 : 347-352, 1998.

Li J.-L, Kaneko T, Nomura S, Mizuno N : Projections from the caudal spinal trigeminal nucleus to commissural interneurons in the supratrigeminal regions : An electron microscope study in the rat. Neuroscience Letters, 254 : 57-60, 1998.

野村 巖：脳内コミュニケーション. 健康人間学, 10 : 32-40, 1998.

森永敏博：健康科学としての理学療法. 理学療法学, 25(8) : 467-469, 1998.

黒木裕士, 森永敏博, 高橋清之, 濱 弘道：遠心性収縮がラット上腕三頭筋に及ぼす影響. 運動・物理療法, 9 : 33-37, 1998.

市橋則明, 池添冬芽, 羽崎 完, 白井由美, 浅川康吉, 森永敏博, 濱 弘道：各種ブリッジ動作中の股関節周囲筋の筋活動量—MMT3との比較—. 理学療法科学, 13(2) : 79-83, 1998.

市橋則明, 池添冬芽, 羽崎 完, 浅川康吉, 森永敏博, 濱 弘道：Closed Kinetic Chain における股関節の外転, 内転, 伸展運動が内側広筋斜頭と外側広筋の筋活動に与える影響. 運動・物理療法, 9(4) : 296-301, 1998.

市橋則明, 岡 英世, 三浦 元, 加納幸恵, 吉田正樹：加齢による筋萎縮と筋力低下に関する研究. 健康医科学, 13 : 11-17, 1998.

Itoh H, Kurosaka M, Yoshiya S, Ichihashi N, Mizuno K : Evaluation of functional deficits determined by four different hop tests in patients with anterior cruciate ligament deficiency. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc, 6 : 241-245, 1998.

池添冬芽, 市橋則明, 羽崎 完, 浅川康吉, 森永敏博, 濱 弘道：片脚立位時における股関節

周囲筋の筋活動について. 運動・物理療法, 9 (1) : 24-28, 1998.

池添冬芽, 浅川康吉, 黒木裕士, 青木信雄：後期高齢者における起居移動動作の自立に必要な下肢筋力水準に関する検討. 大阪ガス福祉財団研究・調査報告集, 11 : 39-44, 1998.

著 書

濱 弘道：3. 検査法⑧その他(ENGなど). 肩診療ハンドブック. 福田宏明・三笠元彦・伊藤信之編, p. 81-84, 医学書院, 1998.

濱 弘道：10. 神経疾患⑦肩甲上神経麻痺, 棘下筋麻痺, 棘下筋萎縮. 肩診療ハンドブック. 福田宏明・三笠元彦・伊藤信之編, p. 242-245, 医学書院, 1998.

濱 弘道：II. 絞扼神経障害の手術(1)肩甲上神経除圧術(2)肘管症候群による尺骨神経麻痺の手術(キング・モルガン変法)(3)手根管症候群による正中神経麻痺の手術. 整形外科手術マニュアル上巻. 秋山泰高編. p. 190-205, メデイカ出版, 1998.

学会発表

濱 弘道：関頭に立つ理学療法—アートとサイエンスの融合—. 第33回日本理学療法士学会, 1998. 6. 11-12, 京都, 理学療法学, 25 (Suppl. 1) : 66, 1998.

濱 弘道：肩の診方と治し方—そのコツを探る—. 第188回京都整形外科医会, 1998. 10. 24, 京都.

Kulik A, Nomura S, Tamaru Y, Malitschek B, Kuhn R, Bettler B, Shigemoto R : Subcellular localization of metabotropic γ -aminobutyric acid receptor, GABA_BR1 immunoreactivity in the rat brain. 28th Annual Meeting Society for Neuroscience in USA, 1998. 11. 7-12, Los Angeles, Abstracts, 1588, 1998.

重本隆一, Kulik Akos, 田丸佳子, 野村 巖, 水野 昇：GABA_B受容体(GABA_BR1)のラット脳内分布. 第103回日本解剖学会全国学術集会, 1998. 3. 31-4. 2, 大阪, 解剖学雑誌, 73(4) : 358, 1998.

江口直美, 金子武嗣, 野村 巖, 水野 昇：中枢神経系におけるプロスタグランジンD合成酵

素の産生と分布. 第103回日本解剖学会全国学術集会, 1998. 3. 31-4. 2, 大阪, 解剖学雑誌, 73(4): 421, 1998.

重本隆一, Kulik Akos, 野村 巖, Malitschek Barbara, Kuhn Rainer, Bettler Bernhard: GABA_B 受容体 (GABA_BR1) の脳内分布. 第21回日本神経科学, 第41回日本神経化学合同大会, 1998. 9. 21-23, 東京, NeuroscienceResearch, Suppl., 22, S83, 1998.

森永敏博: 学会長基調講演「健康科学としての理学療法」, 第33回日本理学療法士学会, 1998. 6. 11-12, 京都, 理学療法学, 25(Suppl. 1): 68, 1998.

黒木裕士, 池添冬芽, 森永敏博: 京都府内における訪問リハビリテーション病院からの訪問実態と共通の問題点一. 第33回日本理学療法士学会, 1998. 6. 11-12, 京都, 理学療法学, 25(Suppl. 2): 246, 1998.

市橋則明, 池添冬芽, 羽崎 完, 浅川康吉, 森永敏博, 濱 弘道, 白井由美: 股・膝関節内外旋動作が膝関節周囲筋に与える影響. 第33回日本理学療法士学会, 1998. 6. 11-12, 京都, 理学療法学, 25(Suppl. 2): 219, 1998.

市橋則明, 羽崎 完, 森永敏博, 濱 弘道: 下肢伸展挙上 (SLR) 訓練時の大腿四頭筋の筋活動量一負荷量と肢位の影響一. 第10回日本理学療法医学会, 1998. 7. 11-12, 札幌, 運動・物理療法, 9(3): 204, 1998.

市橋則明, 羽崎 完, 池添冬芽: 痛み刺激が膝伸展筋力と大腿四頭筋の筋活動に与える影響 (第2報). 第53回日本体力医学会, 1998. 9. 16-18, 横浜, 体力科学, 47(6): 925, 1988.

羽崎 完, 市橋則明, 池添冬芽, 浅川康吉, 森永敏博, 濱 弘道, 白井由美: 半歩前荷重位および半歩後荷重位での膝関節周囲筋筋活動と下腿内外旋の影響. 第33回日本理学療法士学会, 1998. 6. 11-12, 京都, 理学療法学, 25(Suppl. 2): 533, 1998.

羽崎 完, 市橋則明, 森永敏博, 濱 弘道: 一側性下肢 PNF における体幹筋の筋活動. 第10回日本理学療法医学会, 1998. 7. 11-12, 札幌, 運動・物理療法, 9(3): 221, 1998.

羽崎 完, 市橋則明: 両側性・非対称性下肢 PNF パターンにおける体幹筋筋活動の筋電図学的分析. 第53回日本体力医学会, 1998. 9. 16-18, 横浜, 体力科学, 47(6): 712, 1988.

神先秀人, 飯田寛和, 河野一郎, 入江清五, 林千晶, 中村孝志, 向井公一, 市橋則明, 竹林秀晃: 歩行動作の効率性から見た障害患者の評価. 第14回日本バイオメカニクス学会 (シンポジウム), 1998. 9. 24-26, 山梨.

池添冬芽, 浅川康吉, 羽崎 完, 黒木裕士, 森永敏博, 青木信雄: 虚弱高齢者の移動動作能力を反映した体力測定法に関する研究. 第33回日本理学療法士学会, 1998. 6. 11-12, 京都, 理学療法学, 25(Suppl. 2): 8, 1998.

浅川康吉, 池添冬芽, 羽崎 完, 黒木裕士, 森永敏博, 青木信雄: 後期高齢者における膝伸展筋力と起居・移動動作能力との関連について. 第33回日本理学療法士学会, 1998. 6. 11-12, 京都, 理学療法学, 25(Suppl. 2): 607, 1998.

寛 佐織, 浅川康吉, 池添冬芽: 後期高齢者における立位保持能力と重心動揺との関係. 第33回日本理学療法士学会, 1998. 6. 11-12, 京都, 理学療法学, 25(Suppl. 2): 606, 1998.

池添冬芽, 市橋則明, 羽崎 完, 浅川康吉, 白井由美, 森永敏博, 濱 弘道: スクワット時における股関節周囲筋の筋活動について. 第10回日本理学療法医学会, 1998. 7. 11-12, 札幌, 運動・物理療法, 9(3): 199, 1998.

池添冬芽, 浅川康吉, 青木信雄: 高齢者における筋力維持・増強訓練効果について. 第53回日本体力医学会大会, 1998. 9. 16-18, 横浜, 体力科学, 47(6): 927, 1998.

万里里知美, 鍋田清香, 川勝忍生: 前十字靭帯再建術後の当院理学療法の試み一起立矯正台を利用した膝伸展可動域改善一. 第33回日本理学療法士学会, 1998. 6. 11-12, 京都, 理学療法学, 25(Suppl. 2): 185, 1998.

玉木 彰, 大畑光司, 林 義孝, 辻田純三, 堀清記: 松葉杖歩行の生理応答に及ぼす影響. 第33回日本理学療法士学会, 1998. 6. 11-12, 京都, 理学療法学, 25(Suppl. 2): 599, 1998.

大畑光司, 山下千晶, 佐藤雅男, 福井香織, 中

嶋信太郎, 牟禮 努, 大橋久美子, 山崎直信, 香月眞佐美: 二分脊椎の移動動作について—アンケート調査より—. 第33回日本理学療法士学会, 1998. 6. 11-12, 京都, 理学療法学, 25 (Suppl. 2): 581, 1998.

山下千晶, 佐藤雅男, 福井香織, 中嶋信太郎, 牟禮 努, 大橋久美子, 山崎直信, 香月眞佐美, 大畑光司: 二分脊椎の褥創について—アンケート調査より—. 第33回日本理学療法士学会, 1998. 6. 11-12, 京都, 理学療法学, 25 (Suppl. 2): 465, 1998.

田中則子, 小柳磨毅, 大畑光司, 淵岡 聡, 玉木 彰: 座位保持動作の運動解析. 第33回日本理学療法士学会, 1998. 6. 11-12, 京都, 理学療法学, 25 (Suppl. 2): 176, 1998.

玉木 彰, 小柳磨毅, 大畑光司, 林 義孝, 三村寛一: バトミントン競技選手の競技能力と体力の関係. 第53回日本体力医学会, 1998. 9. 16-18, 神奈川, 体力科学, 47(6): 805, 1998.

大畑光司, 田中則子, 玉木 彰, 淵岡 聡, 小柳磨毅, 林 義孝: 歩行時の腰椎角度変化と筋活動について. 第38回近畿理学療法士学会, 1998. 11. 15, 和歌山, 近畿理学療法士学会誌, 28: 113, 1998.

畠中泰彦, 奥田邦晴, 大畑光司, 太田善行, 大塚靖子, 増田基嘉, 久保秀一: 脳性麻痺者における水泳動作の運動学的特性. 第20回臨床歩行分析研究会定例会, 1998. 12. 5-6, 神奈川.

作業療法学科

論 文

山根 寛: ことばを超えたコミュニケーション, 京都大学医療技術短期大学部紀要別冊, 9, 2-9, 1998.

山根 寛: 集まり, 集めることの利用—作業活動を介する集団の概要—, 作業療法, 17, 177-180, 1998.

山根 寛: 境界例に対する作業療法の原則, 作業療法ジャーナル, 32, 1998.

山根 寛: 作業療法における「伝わり」, 作業療法, 17(6), 477-484, 1998.

山根 寛, 小西紀一, 赤松智子, 小野 泉, 加

藤寿宏, 腰原菊恵, 早川宏子: 作業療法における臨床教育のあり方, 京都大学医療技術短期大学部紀要, 18, 15-23, 1998.

赤松智子, 谷垣静子: 在宅難病患者のQOL向上に向けた情報通信サービスのあり方, 京都大学医療技術短期大学部紀要, 18, 1-7, 1998.

腰原菊恵: 自己表現を促した作業活動と治療環境—不登校少女との関わりから—, 作業療法, 17: 395-402, 1998.

著 書

山根 寛: 作業療法の移行対象的機能と試行探索を促す援助. 作業療法事例集 (日本作業療法士協会編), 協同医書出版社, 248-253, 1998.

加藤寿宏: 成人脳性麻痺者に対する腰痛とセルフケアに対するアプローチ. 作業療法事例集 (日本作業療法士協会編), 協同医書出版社, 176-181, 1998.

学会発表

小西紀一, 加藤寿宏: 圧刺激に関する基礎研究—その3—, 第16回日本感覚統合障害研究大会, 1998. 10, 大府.

小西紀一: 自閉症児とのコミュニケーション, 第16回日本感覚統合障害研究大会, 1998. 10, 大府.

山根 寛: パラレルな場 (トポス) の利用, 第32回日本作業療法士学会, 1998. 6, 栃木.

池田朋美, 鈴木淳子, 物 尚子, 高木隆郎, 山根 寛: ベースキャンプデイケア—街中の診療所の小さなデイケアの新しい試み—, 第6回日本精神障害者リハビリテーション学会, 1998. 11, 和歌山.

山根 寛: 精神障害者の生活支援を考える—心の病とその障害について—, 第6回奈良県精神保健大会, 1998. 10, 奈良.

山根 寛: 精神障害者とりハビリテーション, 日本精神障害者リハビリテーション学会第6回大会プレ集会, 1998. 6, 和歌山.

山根 寛: 精神保健福祉多専門職の連携のもとに, 第6回日本精神障害者リハビリテーション学会, 1998. 11, 和歌山.

赤松智子, 元村直靖, 小堀 聡: 健忘患者にお

ける知覚運動学習について, 第22回日本神経心理学学会総会, 1998. 9, 弘前.

赤松智子, 元村直靖, 小堀 聡: 知覚運動学習課題の学習過程について, 第22回日本神経心理学学会総会, 1998. 9, 弘前.

赤松智子, 谷垣静子: 在宅難病患者の情報通信サービス, 第57回日本公衆衛生学会総会, 1998. 10, 岐阜.

赤松智子, 谷垣静子: 在宅難病患者の QOL 向上のための情報通信サービスについて, 第18回医療情報連合大会, 1998. 11, 神戸.

小野 泉: アルミホイルを用いたスプリント採型の一考察, 第14回日本義肢装具学会, 1998. 10, 愛媛.

加藤寿宏: 吃音を主訴とした子どもの治療経験, 第16回日本感覚統合障害研究大会, 1998. 10, 大府.

加藤寿宏: 大学を起点とした感覚統合療法の実践, 第16回日本感覚統合障害研究大会, 1998. 10, 大府.

腰原菊恵, 山根 寛: 病室を訪問する二面性について—長期間未治療で自閉的生活を送っていた症例より—, 第32回日本作業療法士学会, 1998. 6, 栃木.

腰原菊恵, 山根 寛: 地域生活支援センターをはじめ, 第6回日本精神障害者リハビリテーション学会, 1998. 11, 和歌山.

専 攻 科

①論 文

日隈ふみ子, 藤原千恵子, 石井京子: 親としての発達に関する研究—1歳半児をもつ父親を中心に—, 日本助産学会, 12(2): 56-63, 1998.

日隈ふみ子, 内藤直子: 明治助産史・過去から未来へのアプローチ(3)—産婦人科医・緒方正清—, 助産婦, 51(2): 60-64, 1998.

日隈ふみ子, 内藤直子: 明治助産史・過去から未来へのアプローチ(4)—緒方正清と助産婦教育—, 助産婦, 52(4): 59-65, 1998.

日隈ふみ子: 看護婦の歴史—看護が専門職となるまで—, フェミニストジャーナル・Fifty: Fifty, 39, 2-3, 1998.

柳吉桂子: 新生児との生活と保健指導, 助産婦のための退院指導マニュアル, ペリネイタルケア'98新春増刊, メディカ出版, 66-72, 1998.

堀内寛子, 入澤みち子, 脇田満里子, 我部山キヨ子: 育児評価の変化とそれに影響する因子, 日本助産学会誌, 11(2): 126-129, 1998.

脇田満里子, 入澤みち子, 我部山キヨ子, 堀内寛子: 妊娠・分娩・育児期の苦痛に関する記述的研究(第1報)—身体的苦痛に焦点を当てて—, 日本助産学会誌, 11(2): 82-85, 1998.

入澤みち子, 脇田満里子, 我部山キヨ子, 堀内寛子: 妊娠・分娩・育児期の苦痛に関する記述的研究(第2報)—精神的苦痛に焦点を当てて—, 日本助産学会誌, 11(2): 86-89, 1998.

松岡知子, 宮中文子, 山口三貴子, 堀内寛子: 新生児期の孫を持つ祖母の子育て参加に対する気持ち—母方祖母・父方祖母の特徴—, 京都府立医科大学医療技術短期大学部紀要, 7(2): 109-118, 1998.

我部山キヨ子, 堀内寛子, 入澤みち子, 脇田満里子: 出産体験の評価に対する縦断的研究(第4報)—産後1年の出産満足度に影響する因子—, 母性衛生, 39(4): 337-345, 1998.

②著 書

なし

③学 会 発 表

日隈ふみ子: 一歳半児を持つ父親と母親, 京都大学助産婦同窓会平成10年度集団会, 1998.

堀内寛子, 入澤みち子, 脇田満里子, 我部山キヨ子: 育児評価の変化とそれに影響する因子, 日本助産学会誌, 11(2): 126-129, 1998.

脇田満里子, 入澤みち子, 我部山キヨ子, 堀内寛子: 妊娠・分娩・育児期の苦痛に関する記述的研究(第1報)—身体的苦痛に焦点を当てて—, 日本助産学会誌, 11(2): 82-85, 1998.

入澤みち子, 脇田満里子, 我部山キヨ子, 堀内寛子: 妊娠・分娩・育児期の苦痛に関する記述的研究(第2報)—精神的苦痛に焦点を当てて—, 日本助産学会誌, 11(2): 86-89, 1998.

堀内寛子, 我部山キヨ子, 入澤みち子, 脇田満里子: 出産・育児が自己概念に及ぼす影響, 第39回日本母性衛生学会学術総会, 1998. 10. 1-

2, 母性衛生, 39(3) : 229, 1998.